

聖書日課 『からし種』 2022.12.25-2023.1.1

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>12月25日 (日) 申命記 1章</p> | <p>「モーセは、ヨルダン川の東側にあるモアブ地方で、この律法の説き明かしに当たった」(5節)。ヨルダン川の手前で人生を終えるモーセが、川を越えて進む新しい世代の全員に向けてこれから行う遺言説教。百二十歳近いモーセの声は、広大な草原の上を吹く風に乗って、全員で百万を超えようという人々にどのように響くのだろうか。</p> |
| <p>26日 (月) 申命記 2章</p> | <p>「あなたの神、主は、あなたの手の業をすべて祝福し、この広大な荒れ野の旅路を守り、この四十年の間、あなたの神、主はあなたと共におられたので、あなたは何一つ不足しなかった」(7節)。今は飢えも渴きも病も、いさかいも絶望もあるだろう...その時々には。だが、この旅路の終わりに振り返るとき「守られていた、満たされていたんだ」と気付くかも知れない。</p> |
| <p>27日 (火) 申命記 3章</p> | <p>「主はわたしに言われた。『もうよい。この事を二度と口にしてはならない』」(26節)。「その事」のためにこんなに労苦してきたのに、願うことさえ許されない厳しさ。だが、パウロも主に「わたしの恵みはあなたに十分である」(Ⅱコリント12:9)と告げられ、主イエス御自身が「わたしの願いどおりではなく、御心のままに」(マタイ26:39)と祈られたことを思う。</p> |
| <p>28日 (水) 申命記 4章</p> | <p>「従って、わたしはヨルダン川を渡ることなくここで死ぬ。しかし、あなたたちは渡って行って、その良い土地を得る」(22節)。彼らを行かせ、彼らの罪を負って独り残ることを決意したモーセの説教と祈り。これで思い出すのがヨハネ13章~17章、我らを残し、我らの罪を負って独りゴルゴタへ行くことを決意されたイエスの説教と祈り。鮮やかな対比に驚く。</p> |

| | |
|---------------------------------------|--|
| <p>29日 (木)</p> <p>申命記 5章</p> | <p>「どうか、彼らが生きている限りわたしを畏れ、わたしの戒めをことごとく守るこの心を持ち続け、彼らも、子孫もとこしえに幸いを得るように」(29節)。「どうか」と主御自身が切に祈ってくださるその願いは、我々が信仰によって得るとこしえの幸い。「わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った」(ルカ22:32)。この祈りに我々は守られている。</p> |
| <p>30日 (金)</p> <p>申命記 6章</p> | <p>「あなたたちがマサにいたときにしたように、あなたたちの神、主を試してはならない。」(16節)。イエスがサタンの誘惑と闘うとき引用されたことばだが(マタイ4:7)、「マサにいたとき」とは、人々が荒野の長旅で渇きに苦しんだとき。このような飢え渇きも不安も、エジプトへ戻ろうかという葛藤もあろうけれどもそれでもなお！という引用だったのかもしれない。</p> |
| <p>31日 (土)</p> <p>申命記 7章</p> | <p>「彼らの神々の像は火に投じて焼きなさい。それにかぶせてある銀や金に目を奪われて、それを取っておくことがあってはならない。あなたがその罠に陥ることがないためである」(25節)。きっと破壊行為が重要ではないのだろう。それほどまでに、目に見えるもの手にできるもの、すぐに安心できる事に囚われる我々の弱さが言われているのではないだろうか。</p> |
| <p>1月1日 (日)</p> <p>申命記 8章</p> | <p>「あなたが食べて満足し、立派な家を建てて住み、…財産が豊かになって、心おごり、あなたの神、主を忘れることのないようにしなさい」(12－14節)。新しい年を主の御手からいただき、歩み始める。自分の手の中にあると思っているものも、実はすべてが主からのいただきもの。「まず礼拝から始めよう」。この手に託された「恵み」を大切に用いていくために。</p> |